

精神障害者のケアマネジメントに関する研究動向 (1)

— ACT/IPS の視点から —

立石 宏 昭

Research trends in care management for individuals with mental disorder (1)

— from the viewpoint of ACT/IPS —

Hiroaki Tateishi

アブストラクト

わが国における精神保健医療福祉のあり方を「入院医療中心から地域生活中心へ」という基本的な方策を推し進めるためには、包括的な地域生活支援体制の充実が求められる。本稿では、科学的証拠に基づく実践 (Evidence-Based Practices : EBP) として注目されている「包括型地域生活支援プログラム (Assertive Community Treatment : ACT)」、 「個別職業紹介とサポートによる援助付き雇用プログラム (Individual Placement Support Program : IPS)」における国外の研究動向について整理した。

キーワード：精神障害者、ケアマネジメント、ACT、IPS

1 問題の所在

わが国では、「入院医療中心から地域生活中心へ」と移行することを現実化させ、利用者のQOLを高めるための包括的な地域生活支援の充実とそれを支える支援方法の開発が求められている。しかし、地域精神医療の役割は退院後の維持治療や生活支援の範囲を超えるとところは少なく、障害者の就労移行に向けた技術・システムは多様な方法で実践されているとは言い難い状況である。現段階では、就労支援と生活支援、さらに医療までも一体的に提供するシステムとして、初回相談、アセスメント、就労準備、フォローアップなど、一連の就労支援を行っている例はほとんどないのが現状である。地域生活中心へと移行することに対して先行する米国では、重症精神障害者のための「包括型地域生活支援プログラム (Assertive Community Treatment : ACT)」が開発されている。ACTとは、重

い精神疾患を抱えることで頻回入院や長期入院を余儀なくされていた人々が病院の外でうまく暮らし続けていくように、さまざまな職種の専門家から構成されるチームが援助するプログラムである (西尾 2004: 13)。また、働くことを含む地域生活を可能にし、地域の社会資源の調整だけでは解決できないと想定される重症精神障害者を対象に「個別職業紹介とサポートによる援助付き雇用プログラム (Individual Placement Support Program : IPS)」が開発されている。これは、精神保健プログラムであるACTを踏まえながら援助付き雇用の方法を取り込み、クライアントの就労へのニーズに応え展開させたものである。重い症状、就労経験の乏しい人、一般雇用への職業準備性が未確立な人など、すべての一般雇用に関心を示す人を対象としている。このようなACT/IPSは、科学的証拠に基づく実践 (Evidence-Based Practices : EBP) プログラムの一つに位置づけられ、米国連邦保健省薬物

依存・精神保健サービス部の主導により EBP ツールキットとして、国際的に最も注目されている援助モデルである。

2 国外における研究動向

1960年代後半、精神障害者の地域生活支援の方法を検討するため、米国のウィスコン州マディソン市メンドータ州立病院において、アーノルド・マークス博士、レオナード・スタイン医学博士、マリー・アン・テスト臨床心理学博士らによる研究ユニットが立ち上がった。その目的は、病棟閉鎖を行い、退院する精神障害者の地域ケアを多職種チームで集中的に行う心理社会的介入プログラムにおける無作為化比較試験による評価研究であった。そして、1972年、ACTの原型である「地域生活トレーニング(Training in Community Living: TCL)」モデルの援助を受けたものは、対照群に比べて入院期間が短縮し、QOLや社会生活機能、サービス満足度が高かったことを報告している(Steinら: 1980: 392-397)。1974年には、米国精神医学会のGold Achievement Awardを受け、「地域生活訓練は革新的な地域トリートメントプログラムで、このプログラムがなければ病院でケアを受けていただろう人々が、家族にケアの負担を転嫁することなく、地域で生活できることを実証した」と紹介されている(Dixon 2000: 759-765)。ACTの実践は1990年代に入ってようやく広がりを見せはじめ、2001年、全国州政府精神保健プログラム責任者連合研究所(NASMHPD-RI)が全州を対象に行った実施調査によると、回答のあった47州のうち41州でACTが同様な集中的なケースマネジメントプログラムを実施している(NASMHPD-RI: 2001)。

一方IPSは、米国を中心に1990年代初めに開発された新しいタイプの職業リハビリテーションモデルであり、就労定着率の向上や就労継続期間の増加などの効果が証明されたEBPとして、2004年のCochrane Reviewでもその有効性が明らかにされている。現在、連邦政府保健省

薬物依存・精神保健サービス部が主導する6つ(①疾患管理とリカバリープログラム(IMR), ②精神科服薬管理プログラム, ③包括型地域生活支援プログラム(ACT), ④家族心理教育, ⑤援助付き雇用(IPS), ⑥統合的重複障害治療)の代表的なツールキット「Supported Employment Workbook Revised 2006」として、普及活動が始まったところである。

3 研究文献

1. 研究図書

研究図書として、Drakeら(2005)は、重い精神障害者の処遇のための科学的根拠に基づく実践アプローチの方法として、『Evidence-Based Mental Health Practice』を発刊し、介入科学における研究の重要性と科学的根拠に基づく実践のあり方について説明している。なかでも、歴史的背景、実践の原則、および実施への序論を提供し、症例はスタッフと当事者の経験を浮き彫りにしている。また、Beckerら(2003)は、1993年の改訂版として、『A working life for people with severe mental illness』を発刊し、リカバリー指向のアプローチのための論理的根拠について説明している。そして、Fordら(1995)は、『Providing employment support for people with long-term mental illness』のなかで、援助付き雇用は一般的なアプローチとして、新たな支援方法の必要性について論究する研究図書を発刊している。

2. 研究論文

研究論文として、援助付き雇用の訓練時期について、Bondら(1995: 91-111)は、重い精神障害をもつ人々に対する援助付き雇用を早期に行うことは、職業前訓練の不十分さから一般就労率を上げることにつながらず有効でないことを示唆する論文を発表している。同じくBondら(2001: 489-501)は、生活の質の向上と雇用の関係について、一般雇用に継続的に行っている人は、失業している状態の人と比べ、精神症状

に対する安定度が高く自尊心を保ち、就労するが生活の質の向上につながることを論じている。一方、職業選択の必要性について、Muserら(2001:411-417)は、これまでの職業経験や職能に応じた仕事に就くことが定着性を高めることにつながるのではないかと言及し、MacDonaldら(2002:35-50)は、その定着性について、合理的な調整が必要であるという前提を付け、一般的に用いられている精神疾患をもつ当事者に提供される調整機能のポイントは、職場における障害開示を行うことにより、当事者に適した職場環境を作る重要な視点であることを論じている。これらを包括的、総合的に捉えたケアマネジメントの視点として、Cookら(2001:1075-1080)は、精神障害をもつホームレスの人たちへのケアマネジメントやアウトリーチサービスが、単独で就労率を増加させるわけではなく、ターゲットとされた職業紹介サービスを一連の支援の段階で継続的に支援することが重要であることを論じている。そして、McGurkら(2007:437-441)は、精神障害者の就労支援を図るとき、認知障害が大きく影響するため、当事者、家族、事業主に向けた対処を組み込むことがケアマネジメントのポイントであると論じている。

このような援助付き雇用による支援方法を、専門職集団の中でより広範に普及するためには、科学的なプログラム評価やサービス普及研究が望まれるが、Lehmanら(1998:11-23)は、当事者の25%未満がトリートメントプランにおいて、何らかの職業上の目標を持っていたことを示唆する報告をしている。また、Salyersら(2004)は、援助付き雇用の調査研究として、多くは短期間(18-24ヶ月間)であることを報告し、実際の支援経過を長期的に判断するデータの蓄積が少ないことを示唆する論文を発表している。また、Bondら(1997:335-346)は、1997年現在の援助付き雇用に関する文献と、EBPプロジェクトによる6つの無作為化比較試験の特徴について紹介している。さらに、Cook(2006:1391-

1405)は、IPSがエビデンスのある就労支援として広く認知されるには、医療と就労が統合したサービスが展開される実践を通して、それが一般化するまでの実践と研究の積み重ねが不十分であることを言及している。こうした研究の積み重ねから現在では、ACT/IPSおよび集中的ケアが提供されるケアマネジメントに関する研究は、EBPを有する支援方法の開発に入ってきている。

3. 研究テーマ

米国を中心にACTの発展と普及を目的に設立された「アメリカACT協会ACTA(Assertive Community Treatment Association)」は、1984年以降、年次研究集会を開催している。2008年度は、「24th Annual Assertive Community Treatment Conference」が開催され、オープニングの基調講演では、ACTの創設であるウイスコンシン大学、マジソン医科大学のレオナルド・スタインが「A System of Care」と題して、統合化されたサービスシステムの必要について再確認の意味を込めた講演を行った。

会議では、次のような議題のワークショップが行われている。①ACTの業務に関する研究として、Michael Sは、「ACT System Forum」と題して、ACTの組織化、資金調達、プロバイダーの許可、EBPの業務、モニタリングプログラム、ネットワークなどACTサービスの展開の仕方について報告している。Randy Estesは、「Motivational Interviewing for ACT Teams」と題して、動機付け、面接、EBPなど基本的な技術の重要性について発表している。②EBPに関する研究として、John Freemanは、「Cognitive-Behavioral Therapy - Can ACT Workers Make a Difference?」と題して、実践のなかで展開するEBPについて試論を述べている。John Bennieは、「The Family Psycho-Education Model」と題して、重い精神障害を持つ利用者の家族に対する教育プログラムが、EBPを有する研究であることを提示している。③専門職から見た支援

方法に関する研究として、Neil Harbus は、「Housing First: Consumer Choice in Housing and Treatment」と題して、病院のスーパーバイザーの視点から ACT チームによるホームレスと住宅問題に対する支援効果について報告している。また、Marlene Cotton は、「The ACT Nurse; Are You Part Of the Team?」と題して、ACT の看護師としてチームにおける役割と支援のポイントについて説明している。④支援プログラム、モニタリングの方法に関する研究として、Lia Hicks は、「Monitoring Fidelity of ACT Implementation Using the DACTS」と題して、ダートマス大学の ACT スケールとモニタリングプログラムを始動させることため、28項目からなるプログラムの援助構造・援助機能を測定する方法について提案している。特に、第三者の立場にある評価者が、記録の確認やチームミーティングの観察、同行訪問による観察、チームリーダー、利用者・家族に対する5段階評価の視点を提示している。Christopher Welsh は、「Do Medications Treating Nicotine and Alcohol Dependence Work?」と題して、薬物療法を行っている人に何をモニターすべきか論じるための私見を報告している。Liz Sundquist は、「Using DBT Effectively within the PACT Model」と題して、境界性人格障害、薬物依存、自殺未遂をくりかえす重症のうつ病の方にもつかわれている弁証法的行動療法 (Dialectical Behavior Therapy) におけるダイアリーカードとワークシートの利用方法について発表している (Assertive Community Treatment Association: 2008)。

4 今後の課題

米国の ACT/IPS は、脱施設化が進行し、ほぼ完了した後、新たな支援システムとし実践を重ねているが、わが国は脱施設化が始まった段階であり、このモデルを導入することが適切であるかを検討する段階である。ACT/IPS の導入について伊藤 (2003: 406-411) は、「①精神障害者と家族との同居が多い、②1ヶ月程度の急性期

入院治療は確保できる、③病床削減の施策と平行して導入となる、④主治医・患者関係が医療の軸として存在するところへの導入となる、といった我が国の特徴にあわせた ACT の機能の修正が必要」と言及している。とはいえ、地域精神保健医療に居住から就労まで多様なサービスが期待されているなか、ACT/IPS は、訪問看護サービスの利用やジョブコーチによる職場での集中的支援などを含めた訪問による支援方法として、わが国の社会環境に適したシステムを開発する画期的なモデルであり検討する価値は高いといえる。

本稿は、平成20年度文部科学研究費補助金 (萌芽研究) : 課題番号 19653058 の交付を受けて行った研究成果の一部である。

文 献

- Assertive Community Treatment Association (2008) 「2008ACT Conference」
<http://www.actassociation.org/conference/2008/2008ACTConferenceBrochure.pdf>.)
- Beck, L. C., Trombetta, W. L., & Share, S. (1986). Using focus group sessions before decisions are made. *North Carolina Medical Journal*, 47(2), 73-74.
- Bond, G. R., Dietzen, L. L., McGrew, J. H., & Miller, L. D. (1995). Accelerating entry into supported employment for persons with severe psychiatric disabilities. *Rehabilitation Psychology*, 40, 91-111.
- Bond, G. R., Drake, R. E., Mueser, K. T., & Becker, D. R. (1997). An update on supported employment for people with severe mental illness. *Psychiatric Services*, 48(3), 335-346.
- Bond, G. R., Resnick, S. G., Drake, R. E., Xie, H., McHugo, G. J., & Bebout, R. R. (2001). Does competitive employment improve nonvocational outcomes for people with severe mental illness? *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, 69, 489-501.
- Cook, J. A., Pickett, S. A., Grey, D., Banghart, M., Rosenheck, R. A., & Randolph, F. (2001). Vocational outcomes among formerly homeless persons with severe mental illness in the ACCESS program. *Psychiatric Services*, 52, 1075-1080.
- Cook, J. A. (2006) Employment barriers for persons

- with psychiatric disabilities: Update of a report for the president's commission. *Psychiatric Services*, 57, 1391-1405.
- Denzin, N. K. (1989) *The Research Act: A Theoretical Introduction to Sociological Methods*, 3ed edn. Englewood Cliffs, Prentice-Hall.
- Drake, R. and Burns, B (1995) Special section on assertive community treatment: an introduction. *Psychiatric Services*, 46, 667-668.
- Dixon, L (2000) Assertive community treatment: Twenty-five years of gold. *Psychiatric Services*, 51, 759-765.
- Drake, R. E., Merrens, M. R., & Lynde, D. W. (2005) *Evidence-Based Mental Health Practice: A Textbook*. New York: WW Norton.
- Ford, L. H. (1995) *Providing employment support for people with long-term mental illness*. Baltimore, MD: Brookes Publishing Company.
- Guba, E. G. and Lincoln, Y. S (1989) *Fourth Generation Evaluation*. New York, Sage.
- Lehman, A. F., & Steinwachs, D. M. (1998). Patterns of usual care for schizophrenia: Initial results from the Schizophrenia Patient Outcomes Research Team (PORT) client survey. *Schizophrenia Bulletin*, 24, 11-23.
- MacDonald-Wilson, K., Rogers, E. S., Massaro, J., Lyass, A., & Crean, T. (2002). An investigation of reasonable workplace accommodations for people with psychiatric disabilities: Quantitative findings from a multi-site study. *Community Mental health Journal*, 38(1), 35-50.
- McGurk, S. R. and Mueser, K. T. et al (2007) Cognitive training for supported employment: 2-3 year outcomes of a randomized controlled trial. *Am. J. Psychiatry*, 164, 437-441.
- Muser, K. T., Becker, D. R., & Wolfe, R. (2001). Supported employment, job preferences, and job tenure and satisfaction. *Journal of Mental Health*, 10, 411-417.
- NASMHPD-RI (2001) 「Implementation of Evidence-Based Services by state mental health agencies: 2001-Results based on 47 states responding」 (<http://nri.rdmc.org/Profiles01/02EBP2001.pdf>.)
- Sandelowski, M. (1993) Rigor or rigor mortis: the problem of rigour in qualitative research revisited. *Advance in Nursing Science*, 16(2), 1-8.
- Salyers, M. P., Becker, D. R., Drake, R. E., Torrey, W. C., & Wyzik, P. F. (2004). Ten-year follow-up of clients in a supported employment program. *Psychiatric Services*, 55, 302-308.
- Stein, L. I., Test, M. A (1980) Alternative to mental hospital treatment: I. Conceptual model, treatment program, and clinical evaluation. *Arch. Gen. Psychiatry*, 37; 392-397.
- Reason, P. and Heron, J. (1995) *Co-operative inquiry. In Rethinking Methods in Psychology* (eds. JA. Smith, R. Harr'e and L. Van Langenhove), London, Sage.
- Test, M and Stein, L. (1978) Community treatment of the chronic patient: research overview. *Schizophrenia Bulletin*, 4, 350-346.
- 西尾雅明 (2004) 『ACT 入門—精神障害者のための包括型地域生活支援プログラム』 金剛出版, 13.